

平成23年3月期第2四半期 決算説明会Q&A

【計測事業】

Q: LTE端末関連ビジネスが好調な理由と、開発状況やお客様の状況について教えてほしい。

A: 現在のLTE端末関連の開発状況は、チップセットや端末のコア開発が行われており、一部商用化開発が始まっている。当初想定よりも顧客の開発が早めに進捗している印象である。
開発時期については、1st Tierと2nd Tierでずれがある。先行している顧客は、北米や韓国のベンダーと認識している。

Q: LTEの今期から来期にかけての見通しは？

ブロードバンド通信の中で、下位レイヤから上位レイヤに至るまで、LTEやLTEに関わる計測需要が膨らんでいる。LTEに関連した今期の計測ビジネス規模は計測事業の約2割であり、上期の進捗はほぼ半分くらいである。
A: 来期は、今期よりも需要は増えると考えている。通信事業者の端末受入試験において、各オペレータのサービスやアプリケーションの広がりから認証試験や相互接続試験の需要が増える。また、2011年後半に、音声を含めた端末の商用化が予定されており、製造用計測器の需要も立ち上がるとみている。

Q: LTEへ投資を行う通信事業者の商用化時期はいつ頃になると見ているか？

A: 先行しているグループは1、2年で商用化するが、遅いグループは4、5年後に商用化すると見ている。オペレータではアメリカが比較的早く、ヨーロッパは3G/3.5Gへの投資回収を優先しているため、アメリカよりも遅れる。

Q: LTEの認証について、アンリツよりも先行して認証している会社はあるのか、また、アンリツの優位性は何か？

A: CDMA2000を採用しているアメリカの通信事業者ベライゾンへの計測ビジネスとしては、今までアンリツは先行していたわけではなく、数社の計測ベンダーが認証団体から認証を受けている。LTEについては、アンリツは他社に先行あるいは同等レベルで認証を受けている。
アンリツは技術力や提示したロードマップの実行確度の点で評価いただいていると考えている。

Q: Frost&Sullivanで受賞した理由は何か？

A: Frost&SullivanはITや通信関連の世界的な大手調査会社である。今回の受賞はアンリツのLTE市場における製品カバレッジの広さが評価された。アンリツは、LTEのチップセット、端末の開発・製造、基地局の製造・建設・保守などソリューション提供している。

【その他】

Q: 費用について、期初との差異を教えてください。

A: 昨年度一時的に削減した人件費は、期初想定通り戻っている。人件費以外の費用全般は、全社で取り組んでいる効率化により、費用削減を実現できた。
また、R&D費については、さまざまな要因により下期に移行している案件があり、上期実績が46億円（計画は50億円）となった。

Q: 今期計画についての考え方や達成確度を教えてほしい。

A: 通期の売上高は変更無し、下期営業利益は上期並みの利益を確保する計画である。下期は、為替リスク、日本にける顧客の設備投資計画の先行き懸念、R&D費の増加(対上期+8億円)などはあるが、そのようなリスクを織り込んだ公表値である。リスクへの対応策や挽回策も検討しており、公表値は確実に達成したいと考えている。

Q: 中期経営計画(営業利益90億円:営業利益率10%)の達成確度の見通しについて教えてほしい。

A: 一年目の今期は、営業利益率を期初5%から今回7%へ修正した。今期の見通しを達成すれば、2013年3月期での営業利益率10%も現実的なターゲットとなってくる。

Q: 産業機械事業の北米市場におけるX線検査の需要について教えてほしい。

A: X線検査は食品に含まれる金属、プラスチック、骨などの異物を検査するソリューションである。日本では加工食品から食品の材料まで検査需要は広がっている。北米では、食品の中で特に、食肉に含まれる骨を中心とした異物検査需要がある。北米でも、食品検査の需要拡大を期待している。